
茶色くて、黒い奴。

蛭 飛鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

茶色くて、黒い奴。

【Nコード】

N7494A

【作者名】

蛭 飛鳥

【あらすじ】

茶色くて、黒くて、もぞもぞしているものを聞かれたら、貴方はなんて答えますか？

（前書き）

少々短い、初作品です。

茶色くて、黒くて、もぞもぞしているものは、なーんだ？

こう質問されたら、私は真っ先に、自分の大好きなものを答えてしまっただろうな。

「あ、毛虫。」

「うわ、キモチワルイ！ 指ささないで、優！」
なんで皆、そう言うかな。可愛いのに。それでいて、蝶とかは好きだったりするんだよね。

中学校の帰り道、私は一緒に帰っている絵里と、毛虫を数十匹見つけた。もっとも絵里は、見つけるのに協力してくれた訳じゃないけど。

暑い夏の夕方。アスファルトの上で、体をくねらせ、もぞもぞと動く毛虫。

大きいのもいれば、小さいのもいて。

「毛虫の、どこが好きなの！」

『どこが』にアクセントを付けて、私に尋ねる絵里。そんなに、嫌いなんだ。

「どこがって、全部。色も、動き方も、つぶれ方も。」

「つぶれ方！」
だって、毛虫って身近にいるのに、謎の生きものじゃない？

目はどこに付いてるのだろう？ 食べられるのかな？ 毛虫の身は？

「私、生まれ変わったら、毛虫になりたいぐらいなんだよ。」

「うわあ、強烈ね！　優。どうせあなる運命なのに。」

絵里はさっき指をさすなと言ったくせに、今度は自分から指をさした。

さした先にはつぶれた毛虫。まわりには蟻がたかっている。

「……絵里、この世は弱肉強食なの。厳しいんだよ。」

「はあ……冷静ね、優。まあ、死んでも蟻のために体が役立つてるしね。」

「そうよ。それに言ったでしょ？」

目の前には別れ道が、背には夕日があった。そろそろ絵里とお別れ。

「つぶれ方も好きだった。」

そう言いながら、私は反対方向へまがった絵里に手を振った。

「ふっ。不思議ちゃんの優のおかげで、ちよっぴり毛虫がたくましく思えた。じゃあね！」

絵里も手を振りかえした。

家につくまでの道、私は茶色くて、黒くて、もぞもぞしているものを見た。

答えは、弱肉強食の世界を生き抜く、ちっぽけな毛虫。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7494a/>

茶色くて、黒い奴。

2010年12月30日02時35分発行